

越 志 会

思春期を親子で乗り越えていくために ～10代の性の現状から見えてくるもの～

開業助産師・思春期保健相談士 酒井由美子先生

6月21日(土)中越高校・大会議室にて



若年妊娠26.3%
望まない、計画していない妊娠70%

妊婦検診未受診、母子手帳未発行、乳児検診未検診などの状況が顕著

⑥新潟県の10代の出産件数

・平成14年 15才～19才の出産件数が309人という実態に危機感

・学校での教育が積極的に

・平成24年では同149人に

⑦家族計画とは

・「すべての子どもは、望まれた子として産む」ということ

・妊娠を望まなければ、確実に避妊を実行する。

⑧各種避妊法の失敗率

・女性：低用量経口避妊薬 0.1～5%
子宮内避妊器具 1.5～2%
緊急避妊用ピル 2%

・男性：コンドーム 3～15%

・完全無欠の避妊はない

2. 人工妊娠中絶

①人工妊娠中絶とは

・人工的に胎児とその他の内容物を母体外に排出させること

・妊娠12週未満が初期中絶

・12週以降22週未満を中期中絶（死亡届の提出が必要）

・本人と配偶者の同意、未成年の場合は親の同意も必要

②人工妊娠中絶は罪？

・刑法第212～216条「墮胎罪」

・母体保護法の規定により合法化

・心身へのダメージ

・次回妊娠への不安「初めての妊娠が最後の妊娠」になるかも

・当事者は女性、男性の責任は？

③新潟県の10代の人工妊娠中絶件数

・平成14年 15才～19才の中絶件数が911人

・この状況もあり「にいがた思春期研究会」が発足し、活動を開始

・平成24年、同298人

④避妊に失敗した場合

・緊急避妊法、72時間以内に医師の処方により緊急避妊薬を服用

・問題は「リピーター」の存在

3. 性感染症

①性感染症とは？

・人から人へ直接伝染する病気

・病原菌の種類もたくさんある

細菌、ウィルス、クラミジア、真菌、原虫、寄生虫

・病気が起こる場所も体全体

内外性器、目、のど、くちびる、唾液、尿、便、血液、精液、膣分泌液など

②性病と性感染症は違う

・日本だけが増加している

・性交以外でも感染するものもある

・HIV感染に気づかず「いきなりAIDS」の増加傾向。

③性（病）のネットワーク化による感染の拡大

・検査のタイミングは感染の可能性から3ヶ月以上経ってから

・保健所では無料、匿名で受けられる。

・男性は泌尿器科

・女性は産婦人科

・ブライダルチェックなどの名目でも受診可能

生活進路委員会主催の講演会が行われました。この講演会は、2007年6月に長岡市内の公立高校の女子生徒が、トイレで男児を出産し死亡させた事件を受けて始まったもので、今年で8回目を迎えます。

今回は『思春期を親子で乗り越えていくために～10代の性の現状から見えてくるもの～』と題して、開業助産師・思春期保健相談士の酒井由美子先生に昨年に引き続きお願いしました。

生徒向けの講話でも先生にはお世話になっています。

以下は、講演会の内容をまとめたものです。

1. 予期せぬ妊娠、望まない出産の行方

子どもを産むこと、親になることとは

①妊娠には適齢期がある？

- ・「妊活」スムーズに妊娠に到健康管理が必要。
- ・卵子の老化、35才はアウトは間違い、卵子は老化するが生めない訳ではない
- ・精子も緩やかに老化してゆく
- ・不妊症、原因は男女にもあるが複雑、日本人カップルの10組に1組が不妊症

②母親の年齢別出生数

新潟県も全国平均も大差ない

③10代の妊娠を考える

- ・特徴：多くが予期せぬ妊娠。
- ・成長期の体は異常が起きやすい
- ・学業との両立は難しい
- ・出産後の育児、生活費は誰が

④妊娠・出産の経済学

- ・健康保険証が使えないので自費で払う
- ・通院12～14万円
- ・出産に50万円+その他に20万円
- ・経済的な負担が重い

⑤児童虐待の現状：平成23年度厚生労働省統計

- ・死亡した子どもの年齢
0才が25人(43.1%)
2才以下を合わせると39人(67.2%)
- ・加害者は実母56.9%
- ・実母の抱える問題(複数回答)



4. 性暴力による被害

- ①基本構造は強者から弱者への優越感・所有感
 - ・知人間レイプ：顔見知り同士での同意のない性交
 - ・デートDV：男から女と、女から男も
 - ・性暴力のキーワードは「支配」
 - ・からだと心の暴力
- ②彼が彼女がこんな行動をとる！？
デートDVの例
 - ・携帯電話のメールを勝手にチェックする
 - ・メールアドレスを消す
 - ・他の友人とのつきあいを許さない
 - ・言葉や態度で馬鹿にする
 - ・物を投げつける
 - ・無理やり性行為をする
- ③ストーカー殺人
 - ・平成25年10月「ストーカー規制法」「DV防止法」が改正、施行
 - ・摘発件数の増加
- ④インターネットでの出会い
 - ・メリット：年上の人と出会える、遠距離の人と出会える、すぐに次の相手を探せる、自分の顔を見せないですむ
 - ・デメリット：写真や年齢にウソが多いカラダ目的が多い、出会ったことを人に話しづらい、脅迫される
 - ・被害のほとんどはネット（LINE）の存在が大きい
 - ・携帯電話やスマホを持たせることのリスクを親は考えるべき

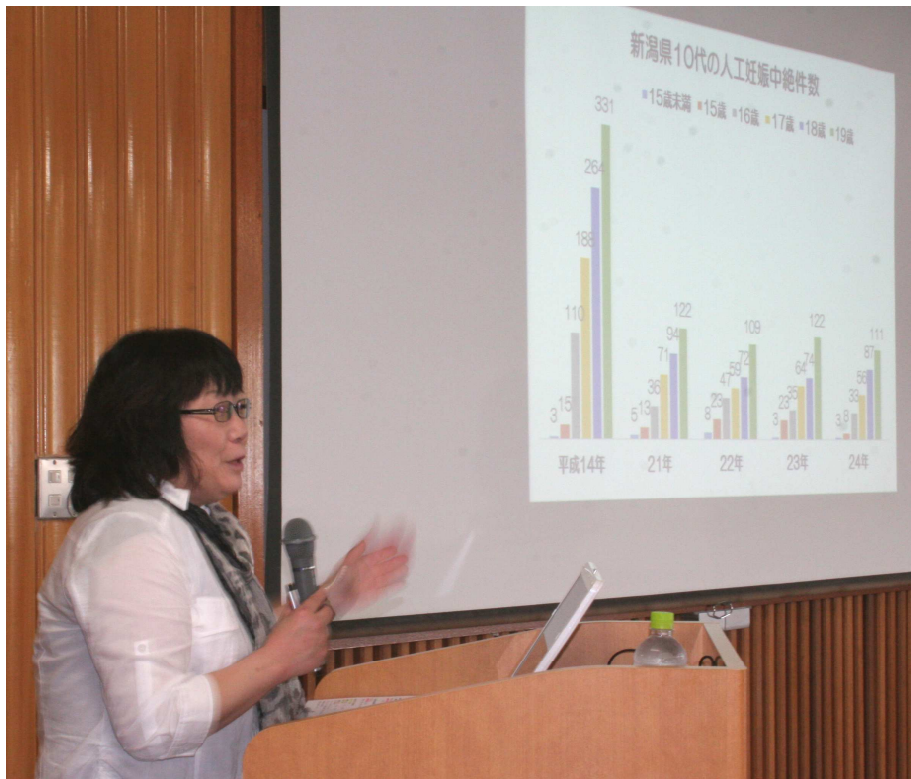
5. 思春期を親子で乗り越えていく為に

- ①人にとっての性とは？
 - ・生命誕生としての性
 - ・コミュニケーションとしての性
 - ・暴力としての性～魂の殺人～
- ②人間関係としての性
 - ・性は人間関係そのもの
 - ・親密な関係を作ることも、暴力としても存在可能
 - ・適切な自己決定（納得・同意・安心・安全・快適が得られているか）
- ③性をとらえる3つの視点
 - ・生きる上での重要課題の一つ
 - ・人間関係を問うものとして考える
 - ・性は人権である
- ④性は生涯学習のテーマ

- ・性科学（基礎医学から臨床医学、看護学、心理学、社会学、教育学、文化人類学などで構成）
- ⑤思春期とは
 - ・子どもから大人への過渡期
 - 小学校中学年から18歳くらいまで
 - 性的な成熟 男子 精通 13.1歳
 - 女子 初潮 12.3歳
- ・自立への挑戦
- 第二次反抗期 キーワードは「依存と自立」
- ・からだところの悩み
- ・夜は眠れない、朝は起きられない、昼も眠い
- 不規則な生活
- ・親の怒り爆発だが・・・
- 自律神経の調整が未成熟ゆえの特徴
- ・心理的離乳の時期
- 思春期の反抗は、「自律」と「自立」の契機
- 精神的な自律と日常生活の自立
- ・自律の段階
- 全介助 → 一部介助 → 見守り → 自立
- ・思春期の健康作り
- 一生の健康作りの土台となる時期
- 骨量の最大値は思春期
- 規則正しい生活と適度な運動で摂食障害、うつ病、統合失調症を予防
- ⑥思春期対中年期
 - ・思春期と更年期との対決と思うべし
- ⑦どんな親子？
 - ・もう一度、親子関係の確認をしましょう
 - ・いい距離感が保たれていますか？
 - 保護型、信頼型、支配型、放任型
 - ・「うちの子は、いい子です！」は、親にとっての都合のいい子ではないですか？
 - ・「最後は親」と思ってくれる関係が大切
- ⑧親の掌の上に立つ自立
 - ・「子ども以上、大人未満」の時期
 - ・大人としての関わり方へ路線変更の時期
 - 一人の大人として認めてやる
 - ・必要以上に手出し口出しをしない
 - ・困っているときは黙って助ける
 - ・失敗をしつこく責めない、さらっと叱る

- ⑨掌から飛び立つ子どもたちへ
 - ・親としてできること
 - 家が、いつでも帰ってこれる場所であること
 - ・何よりも親自身が幸せであること！
- ⑩子育てに必要な5つの「あ」
 - ・愛しているよ
 - ・諦めないよ
 - ・焦らないよ
 - ・慌てないよ
 - ・安心していいよ

以上



『参加者の感想』

1年生 保護者

冒頭は子ども達の、ちょっとショッキングな状況に驚きましたが、後半は親としての心構えを考えさせられました。

1年生 保護者

更年期と思春期の戦いに気づいただけでも、今日の講演会に参加した甲斐がありました。

1年生 保護者

10代の中絶の数字にショックを受けました。

2年生 保護者

5つの「あ」が参考になりました。優しい言葉なのですが、それをちゃんとやるのは難しいですね。ガンバろうと思います。

3年生 保護者

子どもと性についての話をする機会はなかなかありませんが、これを機会にちょっと話してみようと思います。

【今後の主な行事】

- 8月 進路学習会・大学見学①（新潟大学他）
- 9月 文化祭・模擬店・PTAの部屋（学校）
- 10月 進路学習会・大学見学②（東京都内）
- 11月 料理教室②・旬のお弁当（学校）
- 1月 やさしいヨガ教室（学校）
- 2月 卒業生の花リボン作り（学校）

【編集後記】

夏休みを前に子どもたちはウキウキ・ワクワクですが、思わぬところに、思わぬ落とし穴があるものです。親は、付かず離れずが大切な思春期ですね。

8月・9月にもPTA「越志会」の行事が目白押しです。どうぞご参加ください。

